

共同研究プロジェクト

映像情報のカテゴリー化をめぐる研究

研究代表者

大井 眞 二（日本大学法学部新聞学科教授）

研究分担者

小川浩一（日本大学法学部新聞学科教授）、岩淵美克（同教授）、小林義寛（同教授）、
福田充（同教授）、佐幸信介（同准教授）、宮脇健（同学部助手）

研究目的

本研究は2011年3月11日に発生した東日本大震災後のテレビ録画番組の報道内容を分類し、災害時におけるニュース報道を量的、質的両面から研究する上で必要な基盤整備としてのアーカイヴ構築を目的としている。

現在、研究代表者らは2011年3月11日の発災から今日に至るまで、東京キー局（6局）の大震災に関わるテレビ映像の記録・保存を進めており、映像資料データ量は50テラレベルに到達している。この映像記録は、JCC株式会社のマックスチャンネルおよび大量の外付HDDに蓄えられている。

これらの映像データは東日本大震災という未曾有の危機を保存したという事実のみの価値だけに止る訳ではない。さらにその後の時間経過におけるニュース報道の変化を長期間映像データとして保存していることにも、今後のジャーナリズム研究およびマスコミュニケーション研究の分野にとって重大な価値を有している。

特に、発災後東日本大震災関連の報道のみならず、社会、政治、国際問題など様々なニュースが報道されており、その報道された内容を新たな分類枠組みにより研究することによって、これまでのマスコミュニケーション研究の成果を改めて問い直す契機を提供することになる。

そこで、本研究では、①この映像データ保存とニュース番組の分類というアーカイヴ化に向けた作業を行い、②報道内容の量的、質的分析を実施しこの期間のニュース報道の特徴を明らかにするなどの研究のための、研究基盤の整備をすすめている。

研究経過

本研究では、東日本大震災関連の報道のみならず、社会、政治、国際問題という映像データの分類の枠組みを定め、以下の作業を行った。

①3月11日の震災直後から8月31日までのNHKと民放各局の映像データを分類するために、JCCのマックスチャンネルを用いて、「社会」、「政治」、「国際」というキーワードごとに、エクセルデータを抽出し、同時に映像データを確認しながら、上記のキーワードごとに映像データにID番号を付与し、分類を行い、そのカテゴリーに応じ映像データを分類し、アーカイヴ化に向けた作業を試みた。アーカイヴ化に向けた量的分析の結果、「社会」、「政治」、「国際」に関連する映像

データは3月11日から1か月間において東日本大震災に関係する映像データと重複し膨大にあることが明らかになった。しかしながら、1か月後を境に「社会」、「政治」、「国際」の категорияにあてはまる東日本大震災関連の報道量は急激に減少し、その後、徐々に減少する傾向にあることが明らかになった。

現在、このカテゴリーを用いた量的な分析をうけて、テレビ報道の映像データからの上記のカテゴリーごとに質的分析を行ない、テレビ報道の検証とアーカイブ化に向けた作業を行っている。

②大震災関連のテレビ映像データは、JCCのマックスチャンネルに記録保存されているだけでなく、すでに述べたように大量の外付HDDに蓄えられている。この映像データは素データであって、テレビ番組に関するメタデータを欠いており、このメタデータの付与は本研究にとって極めて重要な作業となっている。メタデータはテレビ映像の利用・保存の生命線であって、アーカイブ化の基礎作業であるが、映像を見て整理・分類する、極めて労働集約的な作業であり、膨大な労働力を必要とする。メタデータ付与についてはVanderbilt Television News Archiveのインデックスおよびアブストラクト作成を範としながら、現在その作成をすすめている。しかしながら膨大なデータ量に対応する労働力を欠いており、現在の見通しでは、少なくとも数年にわたる作業時間と作業量が見込まれている。この作業を終了してはじめてアーカイブ化に向けた仕様の第一段階が終ることになる。この作業と並行して、今後の公開・閲覧に関するシステム構築を進めねばならないが、現状では、このために利用できる諸資源を欠いており、さらなる諸資源の充実が強く望まれる。